

(様式4)

平成30年度自己評価結果報告書

学校名 湯梨浜町立泊小学校

校長名 山 本 洋 介 印

1 学校の教育目標

豊かな心と確かな学力を持ち、ふるさとを誇りに思い、未来を切り拓き、たくましく生きる児童の育成

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

(1) わかる授業の創造と確かな学力の育成

- 学習のきまりを共通理解し、学習規律の確立に取り組む。
- 単元づくりや学習過程を創意工夫し、授業改善に取り組み、言語活動の充実を図る。
- ペア学習やグループ学習や情報機器の効果的な活用方法を工夫する。
- 校内授業研究会を充実し、授業力の向上を図る。
- 少人数指導を生かし、個に応じた学習指導を進め、基礎学力の定着を図る。
- 外国語活動・外国語を推進し、外国語への興味・関心を高める指導に取り組む。
- 家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の習慣化を図る。
- 図書館の活用を推進するとともに、読書の習慣化を図る。

(2) 潮風の中でたくましく生きる心と体の育成

- 基本的な生活習慣の大切さについて教育活動全般を通して適宜指導する。
- 道徳教育、人権教育、特別支援教育を推進し、思いやり豊かな心を育成する。
- より良い言葉遣いのあり方については重点的に指導する。
- 潮風タイム（業間運動）を活用し、目標を持ちながら体力の向上に取り組む。
- 食育を推進し、健康な体づくりに関心をもたせる。

(3) ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり

- 総合的な学習の時間を活用し、体験的な学習活動を積極的に取り入れる。
- 地域の施設や外部人材を活用し、特色のある教育活動とふるさと教育を推進する。
- 学校だより、学級だよりを創意工夫し、積極的に情報を発信する。
- ホームページを活用し、旬な情報を発信する。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
わかる授業の創造と 確かな学力の育成	B	(成果) ・研究を進める中で「言葉の力」を教員も子どもも意

		識するようになった。 ・児童の課題である語彙力・音読の力の指導が昨年度より進んだ。 ・図書館イベント等を通して、本に触れる機会が増えた。 (課題) ・「家での学習習慣」「読書習慣」「メディアとの関わり」に保護者アンケート・児童アンケートのどちらにも課題として表れた。読書習慣・家庭学習の充実にゲームやインターネットが影響しているのではないかと考える。
潮風の中でたくましく生きる心と体の育成	B	(成果) ・礼を伴った挨拶ができたり、「ありがとうございます」という言葉を返せたりする児童が増えたと感じる。 ・学校全体が落ち着き、あたたかい言葉が増えてきたと思う。 ・体力テストの結果から、昨年度と比べると全体的な底上げができています。 (課題) ・学校から離れた場面、子ども同士の場面でも成果に上がっているように挨拶ができたり、言葉に気を付けたりできるようにしていきたい。
ふるさとに誇りを思う児童の育成と開かれた学校づくり	B	(成果) ・ホームページを毎日更新し、情報発信することができた。 ・全校グラウンド・ゴルフ運営・指導、わかめ栽培、泊貝がら節指導、梨づくり、読み聞かせ、環境整備等、地域の方・ボランティアの方にお世話になって充実した活動を行うことができた。 (泊小学校だから体験できることが多くある) ・招待給食・しおかぜカフェの取組を通して、地域の方やボランティアの方への感謝の気持ちを表すことができた。 (課題) ・挨拶等を含め、児童・教職員が、地域の方・ボランティアの方への感謝の気持ちを表していけるようにしていきたい。 ・年間指導計画を見直している総合的な学習の時間を計画的に外部人材を活用しながら進めていきたい。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	「わかる授業の創造と確かな学力の育成」「潮風の中でたくましく生きる心と体の育成」「ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり」の3点を重点目標に掲げ取り組んできた。「学校全体の力」がアップしていると感じる取組も増えてきていることもあり、概ね達成といえるが、個別の学習指導・支援や学校を離れた場面での児童のあり方等課題のあるところがある。来年度はこうした課題の解決に向けてさらに取組を進めたいところである。

◎「3・4」の評価の表示方法

A	十分に達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分ではない
D	取組が不十分である

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
1 わかる授業の創造と確かな学力の育成	○家庭学習の定着、家庭学習の質の向上、読書習慣の定着が課題となっている。子どもとメディアとの関係や個別の家庭学習の取り組み方等を踏まえながら課題解決を進めていきたい。 ○本年度の国語科の研究に積み上げをし、「言葉の力」がついてきたと実感のできる授業研究会や研究の取組をしていきたい。 ○道徳科の授業、外国語活動・外国語の授業がより充実するよう研修したり、授業研究を進めたりしていきたい。
2 潮風の中でたくましい心と体の育成	○特別支援教育の充実を図る中で、MIM指導について学校体制としての取組としていきたい。 ○あったか言葉への取組が、校内での広がりだけでなく、学校から離れた場面や子ども同士の場面でも広がっていくよう取組を充実させていきたい。 ○基本的な生活習慣の生活を含めた家庭でのよりよい生活について、家庭と連携しながら充実した取組を行いたい。 ○体力テストの種目において、全体的な底上げがなされてきているので、取組の継続をしながら課題である短距離走等の力も伸ばしていきたい。
3 ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり	○お便りに、子どもたちのよい面や頑張っている面を多く伝えられるようにしていきたい。 ○総合的な学習の年間計画をしっかりと見直し、外部人材も計画的に活用していけるようにしていきたい。